

ときどき、小さな、小さな革命が起こることは、健康的なことだ

阪南市が「これしかない！」と言い張る、今回のヤマダ電機の件

「公立の幼稚園・保育所7つを全てぶっ壊し、ヤマダ電機に、乳幼児600人以上、職員含め700人弱を、1つの公立施設に集めて、強大な「こども園」を「全国初」で作る」という。

1. 段階的 ちょっと前の市の考え方

現状
・少子化と人口減少
・教育施設の過多

現在の整理統合計画
・小中学校・幼稚園
・保育所はない

将来の整理統合計画?

将来公立1つ?

2. ショートカット 今の市の考え方

現状
・少子化と人口減少
・教育施設の過多

今、公立1つ

市の意思決定過程 ⇒ オープンな議論がない
ブラックボックス

住民説明会
「これしかない！」

教育員会含め、今までなぜ命がけで予算取りにできなかったんだろう？

今、2つの考え方がある。1つは「段階的に統廃合を行う」、もう1つは「早かれ遅かれ、最終形に向かうのだから、ショートカットすべき」。ずれにしる、現時点で「乳幼児600人以上、職員含め700人弱を、1つの公立施設に集めて、大丈夫なのか？」という課題は残る。それに、民間（私立）活用の分散型、「段階的」、それらの「組み合わせ」などの選択肢が、ダメな理由がさっぱり分からない。市の意思決定過程のオープンな議論がまったく欠落しているなかで、「これしかない！」と「結論」を言われても。そして、その「結論」も、理に適った最適なものだと、まったく思えないのだから、あとは議会ですな。財源問題なら、指摘している点は絶対。議会もね。

普段、分かり切っているから、言葉や文字に、あえてしないけど、次の世代を担う子どもたちを「たくましく」、「太く」育てるのは、我々、大人の使命です！

すべては、阪南市議会に

膨大な「？」が付く。

オープンな議論なしで市から出てきた「結論」にも、そして、オープンな議論をしなかった「市の意思決定過程」にも。

市の姿勢として、「結論」までの市の意思決定過程のフルオープンな議論を避けたことは、まったく褒められたものではない。普通は、フルオープンで、膨大な資料と議事録を積み上げるのが鉄則。しかし、普通はしないけれど、まったくダメでもない。

なぜなら、民主主義のルール、阪南市議会があるから。この場合、阪南市議会が健全に機能していることが前提となる。そして、市の意思決定過程で通常行われる、「フルオープンで、膨大な資料と議事録を積み上げる」作業を、市は阪南市議会に委ねたというだけ。やればいい。健全に機能しているところを見せて欲しい。